

## C-33 原型作図における衿ぐり寸法について

富山大教育 石原ミキ

目的 適合度の高い原型作図の方法をみいだす目的で、頸付根周辺の形態を把握し、婦人服胸部原型の衿ぐり寸法について検討したいと考えた。

方法 25才から54才までの婦人111人を対象に、背面では、頸椎尖を通るよこ布目線と右頸側尖を通るたて布目線との交点の位置を体表面上にみつけ、その尖から頸椎尖までの寸法①および右頸側尖までの寸法②を測つた。また前面でも、首付根前中央尖を通るよこ布目線と右頸側尖を通るたて布目線との交点から、首付根前中央尖までの寸法③と右頸側尖までの寸法④を測定した。これら①、②、③、④の寸法がそれぞれ原型衿ぐりの後のたてとよこ、前のたてとよこと考えられるので、これらの測定値と胸囲、首付根囲、背肩幅などとの関係をしらべた。

結果 (1) 首付根周辺の形態は複雑で個性が強く、①、②、③、④の寸法ならびにその相互関係には個人差が大きく、適合度の大きな作図方法はみあたらなかった。  
(2) ①および③は胸囲よりも首付根囲からの割り出しが妥当であり、②ほどの部位とも相関がひくいので定数を用いる方がよいと思われる。また④は女部位の中では胸囲との相関の大きい方で、胸囲または首付根囲からの割り出しが妥当であるが、適合度はひくく、定数を用いても大差ないようである。